



～和・希望・自立～

言葉の森



## 校長挨拶

はやかわ しゅう  
校長 早川 就

令和8年度は、幼稚部12名、小学部24名、中学部10名の全校46名でスタートしました。入学式では幼・小・中合計10名の新入生を迎え、明るく元気な年度始めとなりました。校長として本校2年目の今年、30年前の平成8年に教諭として本校に赴任し、令和8年に本校で校長として最後の年を迎えられる幸せと責任を感じています。

本年3月から、南棟が完成し私が新しい校長室で机に向かっていると、渡り廊下を歩いて教室や保健室に向かう幼稚部や小学部の子供たちが毎朝元気に窓越しに、「校長せんせえ〜!」と言って手を振ってくれます。これまで子供たちの動線から離れた場所で、閉ざされた部屋で仕事していた状況から、一気に開かれた環境となり、毎朝幸せなスタートができています。聾学校の設計には、「見える」ことがとても大事なポイントであると改めて感じる毎日です。

さて、去年は手話施策推進法が施行され、東京2025デフリンピックが開催された記念すべき年でした。この流れを受け、私が校長として今年1年間のテーマとして掲げるのは、サステナブル(持続可能)な学校運営です。サステナブルとは、単なる現状維持ではありません。時代の変化に伴い、教育的ニーズも、家庭環境も、子供たちや教員の状況も変わっていきます。それでも、本校が聾学校(聴覚特別支援学校)として果たすべき本質的な役割は、これからも変わらないと思います。それは、「聞こえない・聞こえにくい子供同士(集団)が、共通の言語環境と対等な関係性の中で、自他を大切に、自ら考え、伝え合い、夢を達成するために努力する。」という本校が目指す子供の姿(ポジティブキッズ)と重なります。

本校を維持継続していくためには、子供の集団、教員の確保、教育内容と環境の質的保障が必要です。そして、この3つを同時に保障するためには、学校を地域から見える場=開かれた環境にすることが必要不可欠であると考えています。まず始めに、すでに連携協力体制にあるNPO法人「言葉の森くるめ」との連携強化があります。これと並行して、現在活動休止状態にある、本校同窓会及び後援会の活動再開です。これはすでに着手しました。続いて、当事者団体(ろうあ者協会)、手話の会、市や町等の自治体、そして地元の小・中学校、高校、大学等の学校、事業所、医療・福祉機関等との連携です。この実現のためには、新しい校長室のような、学校の見える化、つまり情報発信と市民の動線確保(呼び込み)が必要だと感じています。



教師として、同時にまた、人として育ててもらった本校に対する、それが私の恩返しであると思い、これからの1年間校長としてトップセールスに努めます。それと同時に、徐々に職員に任せてゆき、自らの退路を開いていかなければと考えるこの頃です。

教師として、同時にまた、人として育ててもらった本校に対する、それが私の恩返しであると思い、これからの1年間校長としてトップセールスに努めます。それと同時に、徐々に職員に任せてゆき、自らの退路を開いていかなければと考えるこの頃です。